

令和7年度韓国慶尚北道サマーキャンプ参加報告

広島文教大学 教育学部 教育学科 3年藤堂咲弥

1. 概要

2025年8月17日から23日まで、韓国慶尚北道で開催された「令和7年度韓国慶尚北道サマーキャンプ」に参加した。中国をはじめ、タイ、インドネシア、ベトナムなど各国から参加者が集まり、文化体験、歴史的施設の見学、国際交流プログラムを通して相互理解を深めた。

2. 文化・歴史からの学び

安東チムタク作りや工芸体験を通して韓国の伝統文化を理解するとともに、トッポキやキムチといった食文化の魅力を体感した。また、仏国寺や河回民俗村、瞻星台などの歴史的施設を訪れ、韓国の文化的背景とその継承の重要性を学んだ。

さらに、盈徳風力発電団地の見学では環境問題や持続可能な未来に対する意識を高めることができた。加えて、サムスン電子広報館では、携帯産業の世界をリードする技術力を体感し、その歴史や技術革新、国際競争力について学ぶことができた。

3. 国際交流による気づき

多様な国籍や文化背景を持つ仲間と活動を共にする中で、言語や習慣の違いを超えて友情を築くことができた。特に、人種、信条、国籍に関係なく、お互いを受け入れ、尊重することで友達になれるという考えを体験的に理解し、相互尊重の姿勢が国際交流の基盤となることを実感した。さらに、自分から声をかけ、積極的に交流することの大切さを学んだ。言葉は違っても、同じ人間として互いに理解し合えるということに気づかれ、大きな学びとなった。

4. 自己の成長と役割

今回の派遣は学生のみであったが、現地ではリーダーとして点呼や指示を行い、学生と主催者の間の連絡係を務めた。韓国語を十分に話すことはできなかったが、翻訳アプリを活用し、時には韓国語を話せる仲間に助けられながら責務を果たした。頼りない点もあったが、広島県からの参加者が協力してくれたことで、全員が楽しく活動に参加でき、運営にも貢献できたと感じている。

5. 今後の展望

異文化交流や英語でのコミュニケーションは挑戦であったが、積極的に関わることで自信を得ることができた。本経験を通じて、将来は英語教育を軸に平和と国際理解の促進に貢献したいという決意を新たにした。また、韓国語をさらに学び、次回再会した際に

は現地の職員と韓国語で会話をしたいという約束を果たしたい。さらに、今回出会った海外の参加者と定期的に連絡を取り、友情を深めたいと考えている。

6. 結論

本キャンプは、文化理解、歴史的洞察、国際交流を通して、自己の成長と将来の展望を深める貴重な機会であった。支えてくれた広島県の参加者、共に学び楽しんだ海外の友人、そして運営に尽力された職員をはじめとする関係者に心から感謝したい。この経験を糧に、平和で持続可能な社会の実現に向け努力を続けていきたい。